

『令和2年度長崎県高等学校総合文化祭 第26回科学研究発表大会』 にて理科部の2グループが最優秀賞をアベック受賞！！

令和2年度長崎県高等学校総合文化祭 第26回科学研究発表大会の審査が、11月27日（金）行われ、生物分野で河原 正堂さん（理科部2年）と太田 誠也さん（同2年）が、物理分野で本村 かなさん（同2年）が、それぞれ最優秀賞を受賞しました。今年度は新型コロナウイルスの影響で口頭発表の部、展示発表の部とも研究論文とプレゼン動画による審査となりましたが、日頃の研究の成果を遺憾なく発揮しての受賞です。最優秀賞を受賞した3名は九州大会に加え、来年7月に和歌山県で開催される全国高等学校総合文化祭へ推薦されることになりました。

最優秀賞を受賞した河原 正堂さんと太田 誠也さんの『大村湾オキヒラシイノミガイの生態』の研究は、「絶滅危惧Ⅰ類に指定されているオキヒラシイノミガイの新生息地を発見したこと」「独自指標の開発と粘り強い調査によって繁殖期を特定したこと」「季節による生息域を特定したこと」等が高く評価されての受賞となりました。

同じく最優秀賞を受賞した本村 かなさんの『なぜ落ち葉は裏向きが多いのか』の研究は、「着眼点・発想が独創的で過去にない研究である点」「科学的な探究方法に沿って論理的に展開されている点」「理論と実験が高いレベルで融合している点」等が高く評価されました。

また1年生ながら展示発表の部にエントリーした川田 匠人さんも『大村湾におけるマイクロプラスチックの分布』の研究で優秀賞を受賞し、九州大会へ推薦されました。たった一人で粘り強く取り組んだことが高い評価につながりました。これからの研究の進展が期待されます。

